

# 感情形容詞の使用実態

——属性形容詞との対比を通して——

村上佳恵

[キーワード：①感情形容詞 ②属性形容詞 ③主節述部 ④節述部 ⑤補部 ⑥修飾部]

## 1. はじめに

現代日本語の感情形容詞は、意味・統語的特徴から、大きく感情形容詞と属性形容詞に分類されている。感情形容詞と属性形容詞には、文中での使われ方に違いがあるのだろうか。この問いの答えを出すことを目的とし、国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス (Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese, 略称 BCCWJ) を用い調査を行う。BCCWJ は、「生産実態 (出版) サブコーパス」「流通実態 (図書館) サブコーパス」「非母集団サブコーパス (特定目的)」という 3 つのサブコーパスからなる約 1 億語のコーパスである<sup>1</sup>。本稿では、そのうちコアデータ (人手調整済みデータ) の「生産実態 (出版) サブコーパス」の 714,822 語を対象として検索を行った<sup>2</sup>。そして、BCCWJ の形容詞を感情形容詞 2 群、属性形容詞 2 群の 4 群に分類し、感情形容詞がどの文の成分として使用されているか、属性形容詞との対比を通し明らかにする。なお、BCCWJ からの用例には、( ) に出典と、著者が個人の場合は著者名を示す。用例の下線は筆者によるもので、用例で出典の無いものは作例である。

## 2. 先行研究

形容詞が文中でどのように使われているかについては、いくつか先行研究がある。

細川 (1990) は、「感情形容詞の連用用法」について考察を行うなかで、感情形容詞の連用用法 (「～くなる」「～くする」「～くない」を除き、「～そうに」等が続くものも除外する) が出現する割合を調査している。『新潮現代文学80』の他各種文庫本を資料とし、「資料内全数調査ではないため、統計的な数値は必ずしも有効ではない」との但し書き付きで、約 8,000 例の感情形容詞について、終止用法 50 パーセント、連体修飾用法 44 パーセント、連用修飾用法 6 パーセントという数字を出し、「連用修飾用法の使用率の低いことは指摘できよう」と述べている。

仁田 (1998) は、「ごく小さな調査」として、『講談社ミステリー傑作選 4』を資料と

し、形容詞が名詞を修飾限定する「装定用法」として使われるか、述語として働く「述定用法」として使われるか、動詞と比較する調査を行っている。その結果は、次の表1の通りである。さらに、仁田(1998)は、形容詞のタイプと装定用法・述定用法の関係についても調査を行っている。形容詞を「属性形容詞」「評価・判断形容詞」「感情・感覚形容詞」の3つに分類し、それぞれの装定用法・述定用法の出現度数を調査している。その結果は、次の表2の通りである。そして、「概略の傾向」として、属性形容詞は用法の中心が装定であり、評価・判断の形容詞と感情・感覚形容詞は述定が多いことを指摘している。

表1 仁田(1998)

	述定	装定
動詞	850 (85%)	159 (15%)
形容詞	250 (37%)	428 (63%)

表2 仁田(1998)

	装定	述定
属性	352	99
評価・判断	76	102
感情・感覚	27	49

八亀(2008)も、形容詞が述語として機能するか、規定語として機能するか、シナリオ・小説・週刊誌(アエラ)という3つの資料で調査を行っている<sup>3</sup>。八亀(2008)は、「修飾語として機能している形容詞のいわゆる「連用形」は副詞として扱」い考察の対象から外している。また、次の(1)は、「「吉村先生は」という主語に対して、述語が与えている属性は「先生だ」ではなく「やさしい」の部分である」とし、「実質的には形容詞が述語として機能する」ものとし、述語として扱っている<sup>4</sup>。

(1) 吉村先生はやさしい先生です。

(八亀(2008))

そして、シナリオでは述語82%、既定語18%、小説では述語64%、既定語36%という数字をあげている。週刊誌(アエラ)については、数字は挙げていないが、「規定語として機能する場合の割合の方が高い」と述べている。

以上のように、形容詞が文中でどのように使われているかは、形容詞の種類や資料によって異なるという興味深い指摘がなされている。しかしながら、細川(1990)は、感情形容詞についてのみ調査をしたものであるし、仁田(1998)と八亀(2008)は、小規模な調査である。本研究では、コーパスのデータを用いて、感情形容詞と属性形容詞の比較を通して、感情形容詞が文中でどのように使われているのかを調査していく。

### 3. 考察の対象

BCCWJのコアデータの短単位検索の形容詞の出現度数は、9,731語である<sup>5</sup>。そのなかで「ない」2,810例には、形容詞の否定辞(形容詞くない)167例、名詞・ナ形容詞(形容動詞)の否定辞(名詞・ナ形容詞でない)1,169例も含まれている<sup>6</sup>。本研究では、形容詞の否定辞は活用形の語尾と考えるので形容詞の出現度数から外す。また、名

(20)

詞・ナ形容詞の否定辞は、考察の対象から外す。また、形容詞「ほしい」161例のうち「～てほしい」121例も、補助形容詞として考察の対象から外し、8,274例を考察の対象とする。

はじめに、活用形別の形容詞の出現度数を示す。BCCWJの活用形のタグは、例を挙げながら見てみると、終止形(少ない)、連体形(少ない(名詞))、連用形(少なく)、語幹(少な)、未然形ー補助動詞(少なから(ず))、意志推量形(少なからう)、仮定形(少なけれ(ば))、命令形(少なかれ)の8つである。BCCWJの連用形は2,526例であるが、「～くない」「～かった」「～くなかった」は終止形として、また、この3つが名詞を修飾している例は連体形として、新たにタグ付けを行った。また「～くなければ」は、仮定形とした。以上のBCCWJの連用形に新たに付けたタグは、次の表3の通りである。そして、表3とBCCWJの連用形以外の出現度数を合わせて活用形ごとに示したものが、次の表4である。また、次の図1は、出現度数の少ない未然形・意志推量形・仮定形・命令形を「その他」としてまとめ、グラフにしたものである。

表3 BCCWJ 連用形の種類

	終止	連体	連用	仮定	合計
BCCWJ 連用形	385	137	2,003	1	2,526

表4 形容詞の活用形別の異なり語数

	終止形	連体形	連用形	語幹	未然形	意志推量形	仮定形	命令形	合計
形容詞	2,281	3,301	2,003	612	12	7	53	5	8,274
	27.57%	39.90%	24.21%	7.40%	0.15%	0.08%	0.64%	0.06%	

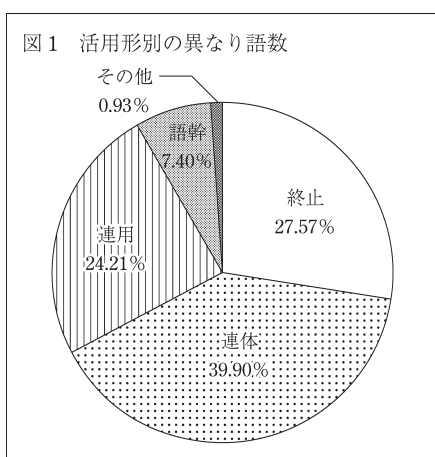


図1より、形容詞は連体形で使用されることが39.90%と最も多く、次いで、終止形、連用形であることがわかる。

活用形によるタグ付けは、形式と次に来る語が名詞であるか否かによるものであり、タグ付けを行いやすいという利点がある。しかし、連体形は、後続する名詞(句)との修飾関係であり、次の(2)ー(4)はすべて連体形である。

(2) あの店のすしは、おいしいのに、売れない。

(3) あの店のすしは、よく売れる。おいしいのだ。

(4) おいしいすしが食べたい。

これらは、文の成分として考えると、(2)は従属節、(3)は主節の述語であるが、(4)の「おいしい」は、述語「食べたい」との直接の関係はない。「食べたい」の補語である「すし」を修飾しているからである。文の成分を「述語との関係」と考えるならば、「連体修飾成分」という成分は、「補語」や「連用修飾成分」と同列に考えることはできない。

そこで、本研究は、形容詞が「述語との関係」という観点から見て、どの文の成分として使われているかを明らかにすることを試みる。詳しくは、5節で述べるが、(4)の「おいしいすしが」を「補部」、(2)の「おいしいのに」を「節述部」、(3)の「おいしいのだ」は「主節述部」とする。また、次の(5)(6)のような形容詞によって修飾された名詞句が述語になった場合は、すべて「述部」の一部になっていると考える。(6)は、(5)とは異なり、形容詞のみが情報価値を持つ文ではないが、コーパスの大量のデータを処理し、形容詞の使用実態を明らかにするという目的には、このような分かりやすい分類が有効であると考えられるからである。

(5) 吉村先生はやさしい先生です。 (= (1))

(6) 父のおみやげは、おいしいすしだった。

## 4. 形容詞の分類

文の成分による分類を行う前に、形容詞の分類を見ていこう。

### 4.1 分類の指標

村上(2012)は、感情形容詞を「感情・感覚を表し得る形容詞」と定義し、いわゆる様態のソウダを用い、感情形容詞2群と属性形容詞2群の計4群に分類する案を提示している。

(7) a. 花子は、悲しそうだ。

b. [花子は悲しいと思っている] ように見える。

(8) a. 花子は、明るそうだ。

b. [花子は明るいと感じている] ように見える。

c. [花子は明るい人間である] ように見える。 ((7)(8) 村上(2012))

村上(2012)では、(7)の「悲しい」は、花子の心の様子を推し測っているのに対し、(8)の「明るい」は、花子の属性を推し測っていると述べている。そして、前者を「内部ソウダ」、後者を「外部ソウダ」と呼び、以下の3つの指標を用い、指標1・2を満たすものを感情形容詞と認定している。

指標1:「花子は、～そうだ(だった)」が「内部ソウダ」として適格文になる。

指標2:「花子は、～そうに～する(した)」が「内部ソウダ」として適格文になる。

(22)

指標3:「～そうな名詞」が「外部ソウダ」にならない。

指標3は、感情形容詞と認められた形容詞を「対象の状態ではなく、より感情の主体の状態を述べることを志向する性質を持っている」語と、そうではない語に分類をする指標であるとしている。例を見てみよう。

- (9) a. \*うらやましそうな 話／高待遇／美貌  
b. うらやましそうな 顔／声／様子／目  
(10) a. きつそうな 坂／仕事／スカート／コース  
b. きつそうな 顔／表情／様子／息遣い ((9) (10) 村上 (2012))

(9)の「うらやましい」は、(9a)のような言い方はできず「より感情の主体の状態を述べることを志向する性質」を持っている語であり、(10)の「きつい」は「感情の主体の状態だけでなく、対象の状態も表すことを志向する」性質を持っている語であると言う。「うらやましい」の群を感情形容詞A、「きつい」の群を感情形容詞Bと呼ぶ。

また、村上(2012)は、次の「うるさい」のように指標1は満たさないが、指標2を満たす語を1つのグループとして取り出している。

- (11) a. 花子は、うるさそうだ。  
b. [花子は、うるさいと思っている]ように見える。  
c. [花子は、大声で話す迷惑な人間である]ように見える。  
(12) a. 花子は、うるさそうに耳をふさいだ。  
b. 花子は [花子がうるさいと思っているように見えるやり方で] 耳をふさいだ。  
c. 花子は [花子が大声で話す迷惑な人間であるように見えるやり方で] 耳をふさいだ。 ((11) (12) 村上 (2012))

(11a)は、花子に「うるさい」という属性があるように見える外部ソウダであると言う<sup>7)</sup>。しかし、(12a)は心の様子を推し測る内部ソウダであり、指標2は満たす。「うるさい」は、属性形容詞であるものの、感情形容詞とも類似点を持つ語として位置付けられている。「うるさい」の群を属性形容詞C、残りを属性形容詞Dと呼ぶ。

この村上(2012)の形容詞分類は、典型的な感情形容詞群と典型的な属性形容詞群があり、その中間に2つのグループをたてた分類である。この4つのグループは、それぞれ使われ方に違いがあるのかをコーパスのデータを用いて明らかにする。

#### 4.2 BCCWJの形容詞の分類

BCCWJの形容詞8,274例に、村上(2012)に基づきタグ付けを行った。各群の異なり語数と延べ語数は、次の表5の通りである。なお、5節の文の成分による分類から、語幹は文の成分になる際には他の品詞に転成するので、考察の対象から外す。そのた

め、表5には、語幹の数も示す。

表5 形容詞群別形容詞の異なり語数と延べ語数

	異なり語数	延べ語数
感情形容詞 A	33	230 (語幹以外 178) (語幹 52)
感情形容詞 B	33	567 (語幹以外 485) (語幹 82)
属性形容詞 C	15	236 (語幹以外 212) (語幹 24)
属性形容詞 D	266	7,241 (語幹以外 6,787) (語幹 454)
計	347	8,274 (語幹以外 7,662) (語幹 612)

次に、各群の形容詞と各語の延べ語数を示す。単語の次にある数字は延べ語数で、数字のないものは、延べ語数が1であることを示す<sup>8</sup>。

表6 形容詞群別語彙リスト

感情形容詞 A (異なり語数33 延べ語数230語)	嬉しい46 ほしい40 懐かしい21 悲しい18 後ろめたい13 悔しい13 恥ずかしい11 惜しい10 切ない7 空しい7 羨ましい5 可愛い4 気まずい4 心強い3 誇らしい3 愛しい2 疎ましい2 恨めしい2 気忙しい2 恋しい2 心細い2 待ち遠しい2 いとおしい いぶかしい 気怠い 口惜しい 心苦しい こっ恥ずかしい 憎い 歯痒い 腹立たしい 晴れがましい 物欲しい
感情形容詞 B (異なり語数33 延べ語数567)	楽しい76 重い70 軽い57 寒い37 つらい34 怖い32 忙しい26 温かい25 熱い25 冷たい23 痛い22 寂しい22 苦しい18 暑い14 有り難い14 恐ろしい9 きつい8 心地良い8 涼しい8 重たい6 可笑しい5 眠い5 清々しい4 慌ただしい3 息苦しい2 おっかない2 痒い2 くすぐったい2 怠い2 まぶしい2 煩わしい2 かったるい 眩い
属性形容詞 C (異なり語数15 延べ語数236)	面白い78 美味しい58 珍しい41 旨い17 うるさい14 苦い6 渋い5 疑わしい4 馬鹿馬鹿しい4 頼もしい3 酸っぱい2 忌まわしい うざったい 物珍しい やかましい

(24)

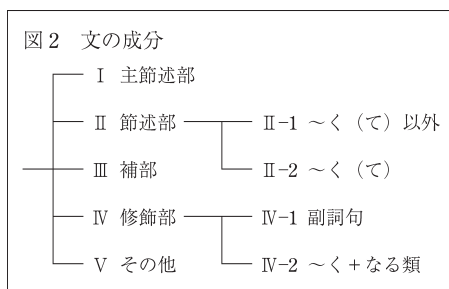
属性形容詞 D (異なり語数266 延べ語数7,241) ない1,474 いい935 多い413 高い287  
大きい245 強い235 少ない179 新しい168 長い159 悪い142 早い140 若い129  
近い119 深い117 美しい111 厳しい100 難しい95 小さい80 激しい76 広い74  
凄しい72 旨い69 安い64 低い58 優しい56 古い55 白い51 正しい47 明るい46  
甘い45 詳しい41 酷い41 薄い37 固い37 短い37 弱い37 可愛い35 暗い35 遠い35  
細かい27 素晴らしい26 厚い25 狭い25 濃い24 鋭い24 幅広い24 赤い23 遅い23  
黒い22 幼い21 可笑しい20 素早い20 青い17 久しい17 貧しい17 親しい16  
相応しい16 物凄しい16 太い14 軟らかい14 仕方無い13 丸い13 偉い12 根強い12  
不味い12 醜い12 怪しい11 賢い11 力強い11 手早い11 乏しい11 程良い11  
著しい10 大人しい10 可愛らしい10 細い10 浅い9 危ない9 好ましい9  
情けない9 手厚い8 でかい8 めでたい8 危うい7 薄暗い7 汚い7 快い7  
逞しい7 鈍い7 望ましい7 潔い6 黄色い6 粘り強い6 呆気ない5  
あどけない5 麗しい5 からい5 ごつい5 さり気無い5 しつこい5 凄まじい5  
尊い5 生々しい5 等しい5 止む無い5 柔らかい5 甘ったるい4 粗い4 淡い4  
勇ましい4 険しい4 懐こい4 賑々しい4 根深い4 華々しい4 細長い4  
安っぽい4 危なっかしい3 甘酸っぱい3 荒い3 輝かしい3 臭い3 香ばしい3  
小うるさい3 騒々しい3 素っ気ない3 頼り無い3 所狭い3 生温かい3 生臭い3  
甚だしい3 平たい3 分厚い3 もろい3 緩い3 愛らしい2 青白い2 悪い2  
味気無い2 荒々しい2 卑しい2 初々しい2 奥深い2 おこがましい2  
木目細かい2 際どい2 極まりない2 くだい2 心無い2 心もとない2 小高い2  
すばしこい2 狡い2 だだっ広い2 近い2 力無い2 肌寒い2 腹黒い2  
ふがいない2 程近い2 程遠い2 微笑ましい2 みっともない2 目覚ましい2  
目まぐるしい2 やばい2 よろしい2 弱々しい2 愛くるしい あえない 青臭い  
赤黒い あくどい 浅ましい 汗臭い 厚かましい 熱苦しい 荒っぽい いかかわしい  
いじらしい いとわしい 嫌らしい 薄汚い うずたかい 薄っぺらい 疑い深い 疎い  
恭しい 恨みがましい うら若い 縁遠い 惜しみ無い おぞましい おびただしい  
おぼつかない 思わしい 愚かしい かいがいしい 難い 堅苦しい 金臭い 徹臭い  
か細い がめつい 軽々しい 考え深い 甲高い 芳しい 気軽い きな臭い 気安い  
清い 仰々しい 口うるさい 口やかましい 気高い けたたましい 神々しい 心憎い  
こっ酷い 酒臭い 騒がしい しどけない しぶとい 罔々しい せこい せわしない  
ださい たどたどしい たやすい 茶色い 土臭い 手痛い 手堅い 手厳しい 手強い  
どぎつい 刺々しい どでかい 長たらしい 名高い なまめかしい 生易しい  
涙ぐましい 苦々しい 似付かわしい 粘い 野太い はかない ふてぶてしい ぼろい  
ほろ苦い みずばらしい 瑞々しい みみっちい 蒸し暑い 睦まじい 目新しい  
めざとい 物寂しい 物々しい 易しい 易い ややこしい 揺るぎない よそよそしい

## 5. 文の成分による分類

形容詞がどの文の成分として用いられるかを見ていく。以下では、表5の形容詞語幹612例を考察の対象から外し、残りの7,662例について考察を行う。

## 5.1 文の成分として何をたてるか

コーパスの大量の用例を前にして、何を文の成分としてたてるかは、非常に難しい問題であるが、本研究では、以下のように、大きく4つの成分とその他に分類を行った。分類と、それぞれに含まれるものの例を挙げる。



### I 主節述部

主節述部には、形容詞がそのまま述語になるもの (13) (14)、「デス」やモダリティ形式を伴い文の述部になるもの (15) (16) がある。また、「形容詞+名詞」に「ダ」「デス」が付き述部になっているもの (17)、それにモダリティ形式が付いたもの (18) も主節述部とする。

- (13) そう言われて改めて見ると、朝陽に輝く原野は確かに美しい。  
(戸井十月『小説宝石』)
- (14) 近年のアメリカ映画はさっぱり面白くない。  
(川本三郎『毎日新聞』)
- (15) ゆっくり過ごされる方が多いです。  
(『クロワッサン』)
- (16) 僕が「進化」と言うことに、反発を感じる人も多いかもしれない。  
(橋幸夫『夢の架け橋』)
- (17) 地元民には、雰囲気、値段ともに馴染みの薄い場所だ。  
(松本葉『どこにいたってフツウの生活』)
- (18) このとき、秋田さんには気になることがあった。泉津は、もっともお年寄りが多い地区だったのだ。  
(広鱈恵利子『命を救え！愛と友情のドラマ』)

### II 節述部

節述部は、2つに下位分類する。1つめは、形容詞に接続助詞や引用の「と」等がつくもの (19) (20)、「形容詞+名詞 (+「ダ」)」や「形容詞+モダリティ形式」に、接続助詞や引用の「と」等がつくもの (21) (22)、活用形では「仮定形」であるもの



(26)

(23) 等である。これらを下の (24) - (26) と区別し、「～く (て) 以外」と呼ぶ。

(19) いちいち引用書の名を出すのも煩わしいから、この点は自分のノートを信用してもらうことにしたい。(柳田國男『毎日の言葉』)

(20) それを聞いたとき、私はこの女の子のことを美しいと思った。(ひのもと由利子『インド』)

(21) 「あなたと杉田は親しい間柄だと聞きました」(唯川恵『青春と読書』)

(22) 学校経営の期間は案外短かったようだが、建物自体はまだ残っているという。(井上眞理子『尼崎相撲ものがたり』)

(23) 炊けたら野菜を竹ぐしで刺してみても、硬ければ数分保温する。(『朝日新聞』)  
もう一つは、「～く」「～くて」「～ても」等の形式で、節を構成しているもの (24) - (26) である。これらを「～く (て)」と呼ぶ。

(24) 別居に至るまでの日々は悲しくつらいものでした。(『北海道新聞』)

(25) 距離的には遠回りだが東名高速より車が少なくて、所要時間はほとんど変わらない。(紀和鏡『週刊朝日』)

(26) 先場所の負け越しは苦しくても良い薬になったようだ。(『北海道新聞』)

### Ⅲ 補部

補部は、「形容詞＋名詞句＋助詞」という形で、文の補語として働くもの (27) (28) である。(27) (28) を見ると分かるように、ここには、「名詞句＋助詞」であるものと、「名詞節＋助詞」であるものが混在している。これは、分類を試みたが、判断に迷う例も多く、恣意的な分類になるよりは分類しないほうがよいという判断で一緒にした。また、「形容詞＋助詞」(29) も、ここに入れた。また、(30) のような助詞のつかない時の名詞句も、ゼロ助詞があるものとして補部に入れる。また、(31) のように助詞が脱落していると考え得るものも、補部に入れる。

(27) 今年の日本映画界は悲しいニュースで幕を開けた。(『産経新聞』)

(28) 定職がない若者の納付意識が低いことも、滞納が増えた原因とみている。(『西日本新聞』)

(29) 二千年前のギリシャで創られた彫刻が、二千年の時を越えて日本人である自分の心をこれだけ打つのか、“優れたものは、古い新しいを問わず、また洋の東西を問わず、まさに時空(時間・空間)を越えて人の心に感動を与えるのだ”ということを心に刻んだ。(大見忠弘『復活! 日本の半導体産業』)

(30) 江崎は幼いころ父を失い、母に連れられて、母の再婚先へ来てから、愛に飢えていたのではないでしょう。(森村誠一『雪煙』)

(31) 悪いことしたら本気で怒らないとだめですよ。(義家弘介『北海道新聞』)

#### Ⅳ 修飾部

修飾部も、2つに下位分類を行った。1つめは、「形容詞く」という形で、述語の程度やあり方を述べるもの(32)と、「形容詞くらいに」「形容詞ように」のような程度や述語の在り方を述べるもの(33)(34)、「形容詞ことに」という形の陳述副詞(35)等である。これらを「副詞句」と呼ぶ。

(32) 私も出張などで東京や大阪に行ったときに、朝早く起きてカラスを観察することがあります。  
(中村幸昭『鳥羽水族館館長のジョーク箱』)

(33) そのことを、メンバーたちは、痛いくらいに強く感じていた。  
(広鱈恵利子『命を救え！愛と友情のドラマ』)

(34) フォークも面白いように決まり結局、打者十九人で十三奪三振。  
(『読売新聞』)

(35) コンピュータに関する知識は友人はだしでしたが、惜しいことに文系科目の成績が芳しくなかった。  
(『週刊現代』)

2つめは、「～く＋なる・する・思う(思われる)・感じる(感じられる)」の形容詞(36)－(38)である。これらは、述語の「なる」「思う」等にとって必須である点で、修飾部ではなく補部に入れるべきかもしれない。しかし、補部にも必須であるものと必須でないものが混在しているので、修飾部として分類した。これらを「～く＋なる類」と呼ぶ。

(36) さっき飲んだ子供用の風邪薬が今ごろ効いてきたらしく、まぶたがとろりと重たくなってくる。  
(村山由佳『IN POCKET』)

(37) 早乙女は初めて、他人の痛みを羨ましく思った。(貫井徳郎『別冊文藝春秋』)

(38) 旧中立地帯沖合で必死の思いで石油操業を継続し、日本に対する評価を高からしめた。  
(ワリード・アリ・アルゴバイジィ『朝日新聞』)

#### Ⅴ その他

新聞等の見出しで述語がないもの(39)や、体言止めの文の名詞句(40)は、その他とした。

(39) 金融不信強く 海外メディアは不良債権問題に厳しい目を向ける。  
(『西日本新聞』)

(40) 目の前のハルコさんは昔とちっとも変わっていない。白いすべすべの肌、大きな瞳。  
(高畑啓子『走り終わって考える』)

以上の分類を用いて、活用形による分類では見えてこなかった「形容詞がどの文の成分として使われているのか」を明らかにしていく。

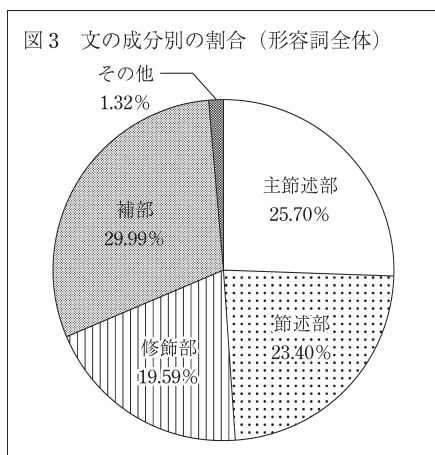
(28)

## 5.2 形容詞全体のデータ

BCCWJの形容詞に、上記の通りタグ付けを行い分類した結果は、次の表7のとおりである。

表7 文の成分別出現度数(形容詞全体)

主節述部	節述部	修飾部	補部	その他	計
1,969	1,793	1,501	2,298	101	7,662
	(～く(て)以外 1,249)	(副詞句 1,139)			
	(～く(て) 544)	(～く+なる類362)			
25.70%	23.40%	19.59%	29.99%	1.32%	



グラフより、形容詞全体では、補部、主節述部、節述部の順に多く、修飾部がやや少なめであることが分かる。なお、活用形と文の成分をクロス表で示すと、次の表8ようになる。終止形・連体形・連用形については、パーセンテージも示す。

表8から、終止形は、主節述部と節述部を合わせると97.55%で、ほとんど述部になると言ってよいことがわかる。連体形は、補部が7割弱、主節述部と節述部でおおよそ3割弱であることが見て取れる。連用形については、修飾部が7割、

表8 活用形と文の成分

	主節述部	節述部	修飾部	補部	その他	計
終止形	1,445	780	1	48	7	2,281
	63.35%	34.20%	0.04%	2.10%	0.31%	1
連体形	513	408	58	2,237	85	3,301
	15.54%	12.36%	1.76%	67.77%	2.57%	1
連用形	9	544	1,436	5	9	2,003
	0.45%	27.16%	71.69%	0.25%	0.45%	
未然形	0	5	4	3	0	12
意志形	1	2	0	4	0	7
仮定形	0	53	0	0	0	53
命令形	1	1	2	1	0	5
合計	1,969	1,793	1,501	2,298	101	7,662

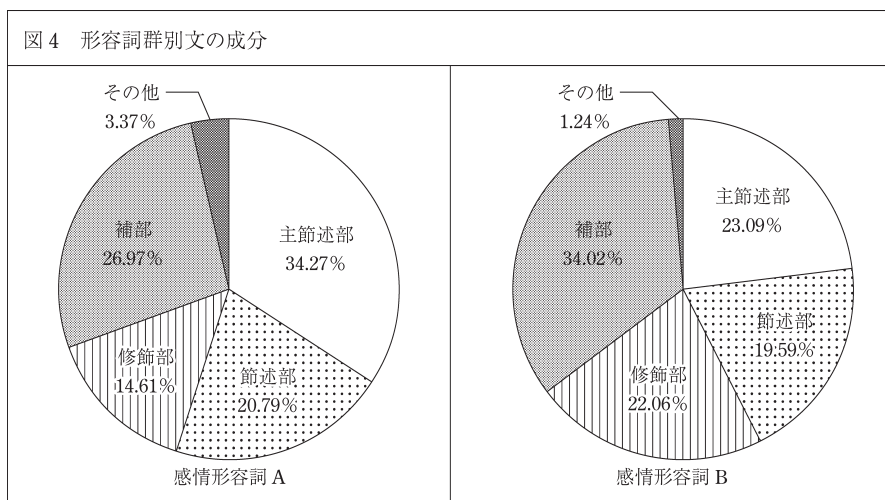
節述部が3割弱であることが分かる。

### 5.3 形容詞群ごとのデータ

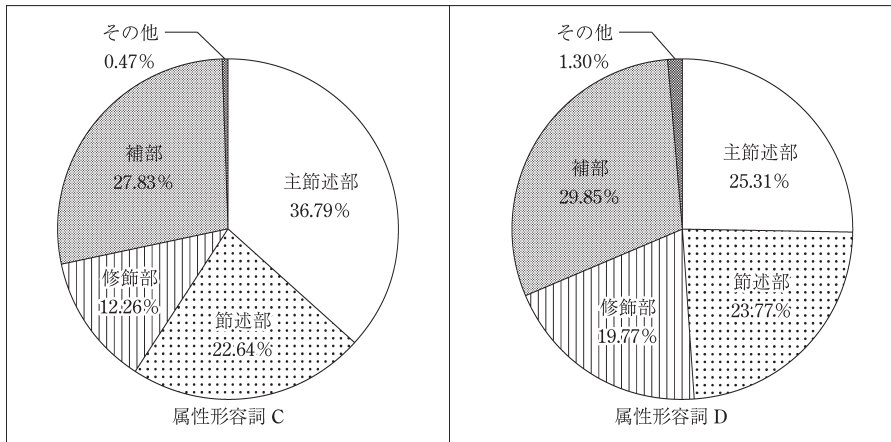
4節で見た4つの形容詞のグループについて、どの文の成分として用いられるかをまとめたとめたものが、次の表9である。図4は、割合をグラフで示したものである。

表9 形容詞群別文の成分

	主節述部	節述部	修飾部	補語	その他	計
感情形容詞 A	61 34.27%	37 (く(て)以外 25) (く(て) 12) 20.79%	26 (副詞句 12) (く+なる類 14) 14.61%	48 26.97%	6 3.37%	178
感情形容詞 B	112 23.09%	95 (く(て)以外 53) (く(て) 42) 19.59%	107 (副詞句 57) (く+なる類 50) 22.06%	165 34.02%	6 1.24%	485
属性形容詞 C	78 36.79%	48 (く(て)以外 36) (く(て) 12) 22.64%	26 (副詞句 18) (く+なる類 8) 12.26%	59 27.83%	1 0.47%	212
属性形容詞 D	1,718 25.31%	1,613 (く(く)以外 1,135) (く(く) 478) 23.77%	1,342 (副詞句 1,052) (く+なる類 290) 19.77%	2,026 29.85%	88 1.30%	6,787
計	1,969	1,793	1,501	2,298	101	7,662



(30)



次に、形容詞がどの文の成分の一部として使われるかと、形容詞分類の間に関係があるか、形容詞 A—C と D で、それぞれ  $\chi^2$  検定を行った。

表10は、感情形容詞 A と属性形容詞 D の文の成分別出現度数をクロス集計したものである。 $\chi^2$  検定の結果、感情形容詞 A と属性形容詞 D の文の成分別出現度数の偏りは、有意であった ( $\chi^2(4) = 14.47$ ,  $p < .01$ )。そこで残差分析を行った結果、感情形容詞 A は、主節述部が多いことが分かった。

表10 形容詞群と文の成分別出現頻度の関係 (感情形容詞 A—属性形容詞 D)

	主節述部	節述部	修飾部	補部	その他
感情形容詞 A	61 (45)	37 (42)	26 (35)	48 (53)	6 (2)
属性形容詞 D	1,718 (1,734)	1,613 (1,608)	1,342 (1,333)	2,026 (2,021)	88 (92)

※カッコ内は期待度数

表11 表10の調整された残差

	主節述部	節述部	修飾部	補部	その他
感情形容詞 A	2.70**	-.92	-1.71	-.83	2.37
属性形容詞 D	-2.70**	.92	-1.71	.83	-2.37

\*\*  $p < .01$  \*  $p < .05$

次の表12は、感情形容詞 B と属性形容詞 D の文の成分別出現度数をクロス集計したものである。 $\chi^2$  検定の結果、文の成分別出現度数に有意な差は見られなかった ( $\chi^2(4) = 8.07$ ,  $p > .05$ )。

表12 形容詞群と文の成分別出現頻度の関係（感情形容詞 B—属性形容詞 D）

	主節述部	節述部	修飾部	補部	その他
感情形容詞 B	112 (122)	95 (114)	107 (97)	165 (146)	6 (6)
属性形容詞 D	1,718 (1,708)	1,613 (1,594)	1,342 (1,352)	2,026 (2,045)	88 (88)

※カッコ内は期待度数

次の表13は、属性形容詞 C と属性形容詞 D の文の成分別出現度数をクロス集計したものである。 $\chi^2$  検定の結果、感情形容詞 C と属性形容詞 D の文の成分別出現度数の偏りは、有意であった ( $\chi^2(4) = 17.98$ ,  $p < .01$ )。そこで残差分析を行った結果、属性形容詞 C は、主節述部が多く、修飾部が少ないことが分かった。

表13 形容詞群と文の成分別出現頻度の関係（属性形容詞 C—属性形容詞 D）

	主節述部	節述部	修飾部	補部	その他
感情形容詞 C	78 (54)	48 (50)	26 (41)	59 (63)	1 (3)
属性形容詞 D	1,718 (1,742)	1,613 (1,611)	1,342 (1,327)	2,026 (2,022)	88 (86)

※カッコ内は期待度数

表14 表13の調整された残差

	主節述部	節述部	修飾部	補部	その他
属性形容詞 C	3.77**	-.38	-2.71**	-.63	-1.06
属性形容詞 D	-3.77**	.38	2.71**	.63	1.06

\*\*  $p < .01$  \*  $p < .05$ 

## 6. 考察

以上の  $\chi^2$  検定の結果から、感情形容詞 A と属性形容詞 C は、属性形容詞 D とどの文の成分として使われるか差があるが、感情形容詞 B はない、ということが明らかになった。

感情形容詞 A は、「欲しい」「うれしい」「懐かしい」といった語であるが、主節述部に多く用いられ、属性形容詞とは異なる使われ方をしている。感情形容詞 A の使われ方が、属性形容詞 D と異なるということは、「感情・感覚」という意味的な特徴で括られる語を1つの語群として取り出すことに意義があると言えるだろう。

感情形容詞 B は、「寒い」「怖い」といった語である。感情形容詞 B は、おおよそ、主節述部と節述部 4 割、補部 3 割で、興味深いことに、属性形容詞 D と使われ方に違いがなかった。感情形容詞 B は、「感情の主体の状態だけでなく、対象の状態も表すことを志向する」語である。今回のデータより、感情形容詞 B は、実際には、感情の主体の状態ではなく、対象の状態を表すことが多い、つまり、属性形容詞として使われることが多いのではないかと思われる。この点については、今後、個々の例の検証していきたい。

(32)

属性形容詞 C は、「おいしい」「うるさい」といった語である。属性形容詞 C は、村上 (2012) では、「属性形容詞であるものの、感情形容詞とも類似点のある語」と位置付けている。今回の調査で、属性形容詞 C はどの文の成分で使われるかという点でも、感情形容詞と共通する特徴を持っていることが明らかになった。C については、今後、個々のデータを検討し、この語群をどのように位置づけるのが、形容詞の全体像を分りやすいものにするのか考えていきたい。

## 7. おわりに

「現代日本語の感情形容詞は、文中でどのように使われているか」という問いに答えるために、コーパスを用いて調査を行った。そして、典型的な感情形容詞 A は、典型的な属性形容詞 D とは、どの文の成分で使われるかが異なることを確認した。やや属性形容詞よりの感情形容詞 B は、属性形容詞 D と使われ方に差がないことが明らかになった。

この結果から何を読み取るかは、もう一度、個々の例に向き合い、感情形容詞 A が述部で多く用いられるという事実が何を意味するのか、「寒い部屋+助詞」というときの「寒い」と、「今日は、寒い。」というときの「寒い」は何が違うのか、といったことを考えていかなければならない。この点については、今後の課題としたい。

## 注

- 1 国立国語研究所ホームページ「言語コーパス整備計画 KOTONOHA」による。  
<http://www.ninjal.ac.jp/kotonoha/> (2012.09.01参照)
- 2 「生産実態 (出版) サブコーパス」コアデータの語数は、コーパス検索アプリケーション「中納言」の「語数について」に「2012/03/30時点」として掲載された語数である。  
<https://chunagon.ninjal.ac.jp/search/about/suw> (2012.09.01参照)
- 3 八亀 (2008) の「規定語」は、鈴木 (1972) の「文の部分」の分類に基づくものであり、「名詞からなる文の部分 (主語・述語・対象語・状況語) にかかり、人・もの・場所・時などの特徴を説明する文の部分」であると述べられている。
- 4 新屋 (2009) も名詞述語文と形容詞述語文についての論考で、「彼はおとなしい。」と「彼はおとなしい性格だ。」という文を比較し、後者の「性格」には「情報価値がな」く、実質的には前者と同じことを意味すると指摘している。
- 5 「言語コーパス整備計画 KOTONOHA」によれば、BCCWJ の言語単位には、「文節を基にした」長単位と、「意味を持つ最小の単位」を規定し、それを「文節の範囲内で短単位の認定基準に基づいて結合させる (又は結合させない)」という過程を経て得られる短単位がある。形容詞でいえば、「～たい」や「～らし

い」「～やすい」等は、長単位では形容詞として検索されるが、短単位では検索されない。そのため長単位では「コートダジュールらしい」や「アプローチし易い」のようなものも含まれるため、「感情形容詞の使用実態を明らかにする」という目的には短単位の方が適していると判断し、短単位を使用した。

国立国語研究所ホームページ「言語コーパス整備計画 KOTONOHA」

<http://www.ninjal.ac.jp/kotonoha/> (2012.09.01参照)

- 6 形容詞否定辞と名詞・ナ形容詞否定辞には、独自にタグ付けを行った。
- 7 (11a) については、「内部ソウダと解釈するには「花子はうるさそうにしていた」のように副詞句にしなければならないと思われる」と述べている。
- 8 BCCWJ の語彙素の「旨い」「可愛い」「可笑しい」については、「旨い」(おいしい/じょうずな)、「可愛い」(愛しい/外見がよい)、「可笑しい」(こっけいな/へんな) の 2 義を認めた。よって、この 3 語は、表 6 の形容詞分類では、2 つの群に出現する。

#### 参考文献

- 新屋映子 (2009) 「形容詞述語と名詞述語 その近くて遠い関係」『国文学解釈と鑑賞』74-7 ぎょうせい
- 鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』 麥書房
- 仁田義雄 (1998) 「日本語文法における形容詞」『月刊言語』 Vol 27-3 大修館書店
- 細川英雄 (1990) 「感情形容詞の連用修飾用法について」『近代語研究』 第八集 武蔵野書院
- 村上佳恵 (2012) 「現代日本語の形容詞分類について—様態のソウダを用いて」『日本語文法』 12-1
- 八亀裕美 (2008) 『日本語形容詞の記述的研究—類型論的視点から—』 明治書院